

報道関係者各位

株式会社コンピュータ・ニュース社

〒113-0033 東京都文京区本郷 3-18-14本郷ダイヤビル6F

TEL 03-4236-5217 (直通) FAX 03-3818-3006

本件に関するお問い合わせは下記をお願いします。

BCN総研 北村 憲正

<http://www.computernews.com/marketview>

ノートの売れ筋タイプに変化 スリムノートが人気を集める

BCN総研は、東名阪のパソコン大手販売会社13社（エイデン、大塚商会＝ランド、グッドウィル、コンプ100満ボルト、コンプマート、CSKエレクトロニクス＝T・ZONE、上新電機、スタンバイ、ソフマップ、九十九電機、ビックピーカン、ニノミヤ、ワンダーコーポレーション＝50音順）562店舗（2001年4月1日現在）の日次販売データをデイリーで収集し配信するBCNランキングを公表しています。このデータをもとに、PCリテール市場の動向を分析したニュース配信を行っています（毎月第2、第4金曜日の発行となります）。

株式会社コンピュータ・ニュース社（本社：東京都文京区、代表取締役社長 奥田喜久男）の市場調査部門であるBCN総研の調べによると、ノートPCの店頭市場において、スリムノートのシェアが急伸し、6月の販売構成比率で33.8%に達していることがわかった。軽量化と低消費電力化で長時間の利用ができるようになり、ユーザーのモバイルニーズに耐えうるレベルになったことが大きな要因とみられる。コンパクトノートやモバイルに対する関心は高まってきており、今後スリムノートの販売はさらに伸びると予想される。

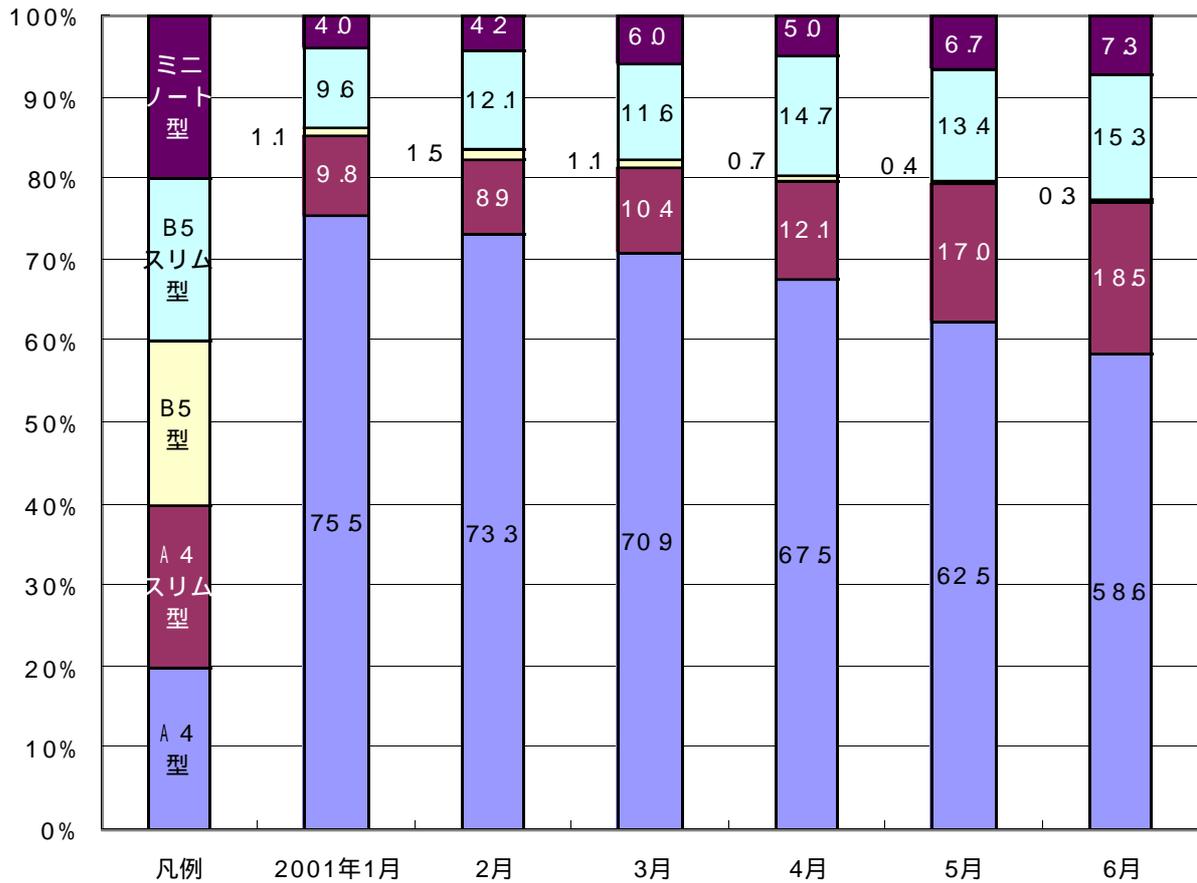
（BCN総研＝北村 憲正）

昨年までは「A4型」のオールインワンノートが主流となっていたが、今春以降コンパクトなスリムモデルの販売が伸びはじめた。とくに「A4スリム型」の人気が高まっている。ノートPCのタイプ別販売構成比率をみると、2001年1月に9.8%だった「A4スリム型」の比率は、6月に18.5%とほぼ2倍近くに伸びた（図1）。この起爆剤となったのが、5月に発売されたアップルの「iBook」である。

同様に「B5スリム型」も、9.6%から15.3%に構成比率を伸ばしている。売れ筋の中心となっているのが、6月に発売されたソニーの「505Rシリーズ」。本体を持ち運ぶ際には、CD-RW/DVD-ROM一体型ドライブや豊富な入出力端子群を装備したドッキングステーションを切り離すことで、モバイルに適した軽量コンパクト化を図れるのが特色。

メーカーがこうしたスリムノートに力を入れているのは、コンパクトなノートPCでも、家庭内で簡単にネットワークに接続できる無線LANの普及を見越しているため。今年の後半からは、周辺機器やデジタル家電ともワイヤレスの接続が可能なBluetooth搭載型のノートPCが本格的に登場するため、持ち運びに優れるスリムノートの需要はさらに伸びるものと期待される。

図1 ノートPCのタイプ別販売構成比率



(BCNランキング)

* 本リリースについて、今後メールでの配信をご希望の方がいらっしゃれば、対応させていただきます。北村までご連絡下さい (kitamura@bcn.co.jp)。